

1 学校の教育目標

- (1) 知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさをもった生徒の育成
- (2) 人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成
- (3) ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成

2 本年度の重点課題

- (1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める。
 - ①新しい学力観に沿って主体的な学習活動を促進し、協同学習の理念を活かしてともに学ぶ態度を育む。
 - ②学習規律を徹底し、自ら授業を改善する学習集団を育てる。
 - ③家庭学習と授業をつなぎ、学習内容の確実な定着と学びに向かう力を高める。
- (2) 体験をとおして温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める。
 - ①想像力と共感性を伸ばし、多くの人の立場で考え、自他共に大切にしようとする態度を養う。
 - ②生徒会活動や短学活を活かし、日々の生活を振り返り、改善しようとする態度を養う。
 - ③生徒自ら楽しめる活動を企画することや、ふるさとに貢献できる活動に取り組ませる。
- (3) 保護者や専門機関、地域との連携を深め、長期欠席への対応や特別支援教育の推進に努める。
 - ①長期欠席が生じないよう、また学校復帰ができるよう保護者との連携を大切にし、小学校や地域との連携を深め、機敏に丁寧に対応するよう心がける。
校内組織に加え、教育相談員・S C・専門機関等との連携を充実させ、組織的・的確な支援対策を講じる。
 - ②なかまづくりを充実させ、SSTやhyper-QU等を活用して個に応じた支援体制の強化を図る。
 - ③郷土芸能など地域の教育的資源を生かし、誇りと自信につなげる。

3 評価項目の達成状況について（教職員の自己評価より）

- A…十分達成されている（4点） B…達成されている（3点）
C…取り組まれているが成果が十分でない（2点） D…取組が不十分である（1点）

(1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める

自己評価 2. 7 （昨年度 2. 9） 関係者評価 A

○主な意見（教職員）

- ・協同が浸透し、個人活動、ペア活動、グループ活動で積極的な姿が見られた。生徒による「協同学習は有意義」との回答が全学年90%以上あり、全体的に学習の取組は良好である。
- ・学校体制としての協同学習の推進の継続しながら、個に応じた学びを推進する必要がある。

★今後の取り組み

- ・協同の理念についての共通理解を図る。また、各教科の特質を踏まえ、指示待ちの態度でなく、自ら課題を見つけ解決するような、より主体的に学習に向かう態度の育成を図る。今後も家庭での学習のあり方を含めて、学びの姿勢を総合的に指導していく。

【関係者評価】（学校運営協議会委員の提言）

- ・授業研究会を重ね協同学習が意識化され個別活動、ペア活動、グループ活動とも多くの生徒が集中して取り組み、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で学習できている。授業づくりのさらなる研究など改善の余地がある。

(2) 体験をとおして温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める

自己評価 2. 7 （昨年度 2. 9） 関係者評価 B

○主な意見（教職員）

- ・今年度もコロナ禍であったが、少しずつ行事を復活させることができた。
- ・指標の「部活動に積極的参加」した生徒は1、2年生では90%を超えたが、3年生で低かった。「学校は楽しい」生徒は目標に達していない。

- ・不適切な言動や人間関係のトラブルが見られるが、学年が進むにつれて落ち着いてきた。

★今後の取り組み

- ・各行事および日々の活動においてなかまづくりを進めるとともに、取り組みの見える生徒会活動を通じて学校づくりへの参画の実感と意欲の向上を図る。

【関係者評価】（学校運営協議会委員の提言）

- ・日常生活も含め可能な体験活動を増やし、特に行事等をととして学級のなかまづくりが進んだ。生徒会活動の基盤ができ日常の活動が定着してきたが、生徒が学校づくりに参画している実感は不十分。

（３）保護者や専門機関、地域との連携を深め、長期欠席への対応や特別支援教育の推進に努める

自己評価 2. 5（昨年度 2. 9） 関係者評価 B

○主な意見（教職員）

- ・長期欠席者が多く、不登校生徒数が掲げた指標を超えてしまった。ただ、個別の支援会議を多く持つなど保護者や他機関との連携の取り組みを細やかに行い、教室復帰した生徒も複数ある。
- ・郷土芸能学習は中止したが社会人講話などコロナ対策の中で可能な限り実施した。町教委アンケート「湯梨浜町が好き」の肯定的回答は92. 6 %だった。

★今後の取り組み

- ・学習面、なかまづくり、不登校対策など含めて、個に応じた細やかな指導を行うことを継続していく。その中で組織的な取り組みを行い、教員個人の負担感を軽減しながら進める。

【関係者評価】（学校運営協議会委員の提言）

- ・不登校生徒数の増加や特別支援対象生徒の言動に対する指導に苦慮する場面がある。職員間の情報共有や複数での対応、丁寧な家庭連絡、多岐にわたる専門機関との連携、定期的な支援会議の開催などの取組は定着してきた。

4 全体的な評価（教職員による評価、学校運営協議会委員の提言を合わせて）

結果 B

学年が上がるにつれて落ち着いた学習態度で指標の数値も向上している。生徒理解や家庭の実態の理解を大切にしながら、授業づくりの研究を継続し、コロナ禍にあっても工夫して可能な限り体験活動を確保してきたこと、関係機関との連携を推進してきたことなどの取組の効果と考える。個々の生徒の成長のため、社会の急速な変化による生徒や家庭の変化に対応した取組を工夫する必要がある。

5 評価をととして明らかになった成果と課題（教職員による評価、学校運営協議会委員の提言より）

今年度もコロナ禍にあって教育計画の変更が余儀なくされる中、教員も生徒自身も工夫しながら学びの保障、人間関係の構築を進め、学年が進むにつれて落ち着いた態度で学習し生活している様子がうかがえる。また、協同学習の理念にもとづく授業研究を推進し、落ち着いて学習に取り組める状況にある。生徒による魅力的な学校づくりとして全校生徒に活動が見える生徒会となるよう工夫が見え始めた。

授業研究については、理念の研修とともに教科の学力保障につながる具体的な方策を考え教員自身が見通しを持って取り組めるようさらに情報共有を進めることが必要である。

また、不登校に限らず家庭の協力の有無の影響は大きいことから、学校の対応だけでは対応しきれないので、学校運営協議会をはじめ専門機関との連携を通して家庭を支援しながら協力を得るようになる必要がある。そのために定期的に学校運営協議会委員や学校支援ボランティアが来校しやすくなるような仕組みを作る必要がある。

学習面、なかまづくり、不登校対策など含めて、個に応じた細やかな指導を行うことを今後も継続する必要がある。そのために組織的な取り組みを行い、教員個人の負担感を軽減しながら進めるとともに、細やかな生徒支援のために人員を確保することも重要である。